



太陽と緑のゴーヤ・ガーデン！計画案

ゴーヤについて

特徴

つる性の一年生草木。成長すると長さ4 - 5 mになる。果実は細長い紡錘形で長さ20 - 50 cm，果肉を構成する果皮は無数の細かいイボに覆われ，両端は尖り，未成熟な状態では緑，熟すと黄変軟化し裂開する（収穫しても，常温で放置しておくと同じ状態となる）。さらに完熟した種子の表面を覆う仮種皮は赤いゼリー状となり甘味を呈する。腐敗しているわけではなく食すこともできるが，歯ごたえのある食感は失われる。元来野生状態ではこの黄色い果皮と赤くて甘い仮種皮によって果実食の鳥を誘引して種子散布を行っていたものと考えられる。（ウィキペディアより）

栽培方法

本州全域でも，梅雨以降の夏場で，日照が強くて気温が高く，雨も豊富な時期であれば，露地でキュウリ等の在来作物同様に種を蒔いて栽培する事が出来る。栽培に際しては棒や網などを立て掛けて巻きつけるようにして栽培する。本州での栽培も数年前から定着しているため，首都圏ではスーパーマーケットの野菜売り場等でも購入が可能である。なお，緑色の実も種も未成熟なので，家庭で栽培する場合には，丸々一本を採種用に黄色くなるまで放置するか，園芸店などで種を購入した方が良い。ただし，最近ではF1品種が多いため，完熟させ種を採取しても今年と同様に実が育成するとは限らない。F1品種の疑いがある場合は種や苗を購入すべきである。比較的病害虫に強く，日照と気温と十分な水さえあれば，肥料や農薬はほとんど使わなくても収穫が得られ，家庭菜園の作物にも適している。（ウィキペディアより）

土づくりについて

- ・消石灰と鶏糞や牛糞，腐葉土などを適当に加えて耕す。
- ・実を育てるにはリンを含んだ土，葉っぱを育てるにはチッソ・尿素を含んだ土がいい。

種まきについて

- ・種から育てる場合は，ポットなどに植えて，ある程度育ってから地植えする。
- ・発芽率は7割程度である。気温が23以上ないとなかなか発芽しない。
- ・ポットで育てる場合は，家の中で気温が一定なら1週間ほどで芽が出る。
- ・種に余裕があれば，ポット1個に3粒の種を植える。
- ・種は弱いので，ポットに入れる土は刺激の少ないもの（黒土と多少の養分）を使う。

移植の仕方について

- ・20 cmぐらいに育ったところで地植えする。
- ・育ち過ぎと育ちの悪いものを間引きして，よい苗だけを地植えする。
- ・苗はある程度間隔を離して植える。移植の際は十分に水やりをする。

育て方について

- ・わき芽は適当に摘む。そうしないと実の方に栄養が回らない。
- ・伸び始めたら，支柱やネットにからめてあげる。園芸用の
- ・水はこまめにやる。
- ・追肥は最低 1 ヶ月に 1 回はやる。

関連する学習内容について

学 年	教科・領域	学習内容として
1 年	生活科	・アサガオなどの花を育てたり花の生長の様子を振り返ったりする活動を通して，それらが生長していることや世話をする楽しさに気付き大切に作る気持ちをもつ。 ・エネルギー・環境教育の単元として
2 年	生活科	・野菜（ゴーヤ）の成長や収穫を楽しみにしながら継続的に世話をしていく中で，成長の様子や世話の仕方，収穫の恵みなどに気付く。 ・エネルギー・環境教育の単元として
3 年	理 科	・植物の体は根，茎，葉からできていることを知る。 ・成長するとつぼみができて開花し，そのあとに種や実ができることを知る。
4 年	理 科 算 数	・春と比較して植物の変化を観察し，変化にはあたたかさが関係することに気付く。 ・枯れる植物は種や実を作ることに気付く。 ・緑化の面積（長方形）を調べる。
5 年	理 科 総 合	・花はめしべに花粉がつくことによって結実し種子ができることを知る。 ・植物が育っていくには，日光や肥料が関係していることに気付く。 ・壁面緑化としての効果を調べる。（温度を下げる効果，CO ₂ 削減の効果） ・看板などの設置
6 年	理 科	・植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること，二酸化炭素を吸収することを調べる。
特別支援	生活単元	・野菜（ゴーヤ）の栽培活動を通して，野菜の成長を間近に見たり触れたりしながら楽しんで活動する。 ・エコ・クッキングの活動として

その他，創意工夫によっていろいろな教科・領域の学習で活用することができます。